

最前線リポート

一般質問の要旨を紹介します

質問者

2月26日

2月27日

荻原 康二(自) 中村 紀雄(自)

長崎 博幸(オ) 塚越 紀一(オ)

小島 明人(公) 橋爪 洋介(自)

早川 昌枝(共) 岡田 義弘(自)

3月2日 3月3日

金田 克次(自) 中沢 丈一(自)

大沢 幸一(オ) 石関 貴史(改)

久保田順一郎(自) 金子 浩隆(自)

田所三千男(自) 平田 英勝(自)

小野里光敏(自) 関根 関男(自)

()内は所属党派です。
(自)自由民主党、(フォ)フォーラム群馬、(公)公明党
(共)日本共産党県議団、(改)改革クラブ

行政

平成16年度当初予算について
・予算編成にあたり、留意した点は何が。
・「改革の断行」の中味と決意はどうか。
・県税収入の見通しはどうか。また、財源の確保や歳出抑制についての基本的な考え方はどうか。
・「ぐんま新時代」に対する知事の思いはどうか。また、県民の理解が大切であると思うがどうか。
・予算のどこに新時代を見いだすのか。また、マニフェストとのリンクについてはどうか。
・臨時財政対策債の取扱いは、国の一方的な便宜になってしまふ恐れはないか。
・「三位一体の改革」について
・「三位一体の改革」をどのように捉えているのか。また、国にどのような働きかけをすべきと考えているのか。中止を求めるべきと思うがどうか。
・「新しい時代」の認識と行政手法について
・今までと違う「新しい時代」にはそれに合った行政手法が必要であると考えるがどうか。
・偏りのない民意はどのように把握するのか。
・県独自の施策について
・地方分権を担える力量を示すために、独自施策を推進する必要があると考えるがどうか。
・ハードからソフトへの政策転換について
・新たな需要に対応するため、ハードからソフト重視に政策転換していくべきと考えるがどうか。

行政

大規模公共事業の見直しについて
・増田川ダムについては、必要性について改めて評価を行い、中止すべきと思うがどうか。
・西毛広域幹線道路については、根本的に検討をしてはどうか。また、東毛広域幹線道路は、部分的に現道の活用を図るべきと思うがどうか。
・国庫補助金の削減に合わせ、特別養護老人ホーム整備の県単加算や高齢者住宅改造費補助の廃止など福祉施策に切り込んでいるが、予算の組み替えが必要と思うがどうか。
・機構改革・理事制の導入について
・職員全体が組織改編のねらいを正しく理解し、意識改革を徹底できるかどうか成否の鍵を握っていると思うがどうか。また、市町村の理解と協力も不可欠であると思うがどうか。
・地域機関の組織改編は新年度以降となり、本庁との権限と役割が不明瞭にならないか。
・行政改革・行政評価室、合併支援室、治安回復対策室などは、どのような背景、理由から設置するのか、「室」に対する基本的な考えはどうか。
・行政の経費節約について
・知事を含め、特別職の退職金を定めた条例について、見直すべきと考えるがどうか。
・今後、退職予定者が増大するが、退職金総額の推移とその影響、また、対策はどうか。
・ゴミの減量化に向けた取り組みの現状は、量換算、金額面の換算ではどのようなになっているか。また、今後の推進計画、計画目標はどうか。
・地域機関の複写機リース契約を3年間にすることにより、経費節減できると考えるがどうか。
・行政改革について
・外部委託を進める必要があると考えるが、どのような理念と基準に基づいて進めていくのか。
・総務事務の集中化を進めた上で、可能な限り民間への委託を実現すべきではないか。
・公社・事業団の見直しについて、どのような方針で取り組んでいくのか。
・県職員は県民全体の奉仕者であるという意識を浸透させ、志気を高め、行動に表すことが県政を推進させるため必要であると考えるがどうか。
・より住民満足度の高い行政へと導いていくために必要な意識改革について、どのように考え、そして行政全体の取り組みについてどう考えるか。
・県職員の地域活動への参加について
・職員の地域活動への参加状況と、参加をさらに促すための県の取り組みはどうか。
・人財育成政策について
・「ぐんま新時代」にふさわしい人財育成政策をどのように考えているか。

行政

・管理職の意識改革をどう推し進める考えか。
・策定から5年経過した「群馬県人材育成基本方針」の評価と問題点は何か。また、新時代に見合った方針に改革する必要があると考えるがどうか。
・企業局の経営方針と16年度重点事業について
・これまでの経営改善の取り組みはどのようなものか。また、今後の経営方針はどうか。
・どのようなことに重点的に取り組むのか。
・板倉ニュータウンの販売促進には、魅力を高めるための環境整備が必要と思うがどうか。
・県央第一水道の水道料は、今後、設備の更新に合わせて増額する必要があるのではないか。
・税制を揺るがすインターネット社会について
・ネット上の経済活動に対する課税について、国へ働きかけていくべきと考えるがどうか。また、課税についての検討状況はどうか。
・電子県庁推進計画について
・群馬県電子県庁推進計画」の本年度の取り組み状況と16年度事業計画はどうか。
・住民基本台帳ネットワークについて
・県内の「住基カード」のこれまでの発行状況及び県民の住基ネット普及に対する考え方はどうか。
・横文字の使用について
・行政に於いては、安易に横文字を使用せず、日本語を正しく使つべきと考えるがどうか。
・市町村合併について
・本県の取り組み状況をどのように評価するか。
・合併への取り組みが遅いとの総務省の指摘をどのように受け止めているか。
・合併特例法の最終年度であり、県の先導が必要と考えるがどうか。
・イラク問題について
・自衛隊の派遣を直ちにやめるよう政府に求めるべきと思うがどうか。また、この派遣が憲法9条に違反していると考えれば認識はどうか。
・構造改革特別区域について
・構造改革特区の提案結果はどうだったか。また、特区活用に対する取り組み状況はどうか。
・「水の特区」構想提唱後の取り組み状況と今後の推移・取り組みはどうか。

景気・雇用

県内景気と雇用対策について
・県内経済に対する認識はどうか。
・雇用支援策の具体的な成果はどうか。
・新卒予定者の就職決定状況はどうか。
・求人、求職の質的な内容はどのようになっているか。常用雇用とパートタイマーの求人実態、年齢別、職種別の状況はどうか。

景気・雇用

・若年者に対するミスマッチ解消の取り組み及び若年求職者のための職業訓練はどうか。また、新年度から取り組みむ企業ニーズに応える若者育成の訓練とはどのようなものか。
・企業に対しリストラを止めるよう要請すべきと考えるがどうか。また、実施する場合には、事前協議制を義務づけるべきと考えるがどうか。
・高校新卒者の離職防止対策について
・高校新卒者の内定状況はどうか。また、昨年に比べてどのような特徴があるのか。
・高校新卒者の早期離職の状況をどのように捉えているか。また、その対策についてはどうか。
・中小企業の販路開拓支援について
・今後、どのような方針で中小企業の販路開拓を支援し、具体策を講じていくのか。
・制度融資について
・16年度は、県内経済の発展と中小企業金融の円滑化のためにどのように取り組むのか。
・県内事業者への支援について
・「ぐんまチャレンジファンド」の実績と今後の推進見直しはどうか。
・15年に開設した産業技術センターの実状と今後の取り組みはどうか。
・国際競争に勝つためにはISO(国際標準化機構)の認証取得が必要と考えるが、取得のための事業者に対する支援等、今後の取り組みはどうか。
・科学技術振興について
・「科学技術立県」へ向けての決意はどうか。
・県発展の新たな種を生み出すため、民間企業・大学・行政が幅広く研究連携を推進する方針についてどう考えているか。
・産学官連携の推進について
・産学官連携による研究並びに開発の成果を行政の分野で積極的に活用すべきと考えるがどうか。
・支援の現状と今後の方針はどうか。
・観光振興策について
・これまで国際観光にどのように取り組んできたのか。また、今後どのように推進するののか。
・広い意味の観光推進について
・事業内容や目指すところは何か。
・力強い「群馬の農業」づくりについて
・「少子高齢社会」の中どのようにして真の農業の担い手を育てていくのか。
・WTO(世界貿易機関)及びFTA(自由貿易協定)交渉下における、農政の基本的な考え方はどうか。
・水産振興について
・総合的な内水面漁業の振興に、どのように取り組むか。

産業

・産学官連携による研究並びに開発の成果を行政の分野で積極的に活用すべきと考えるがどうか。
・支援の現状と今後の方針はどうか。
・観光振興策について
・これまで国際観光にどのように取り組んできたのか。また、今後どのように推進するののか。
・広い意味の観光推進について
・事業内容や目指すところは何か。
・力強い「群馬の農業」づくりについて
・「少子高齢社会」の中どのようにして真の農業の担い手を育てていくのか。
・WTO(世界貿易機関)及びFTA(自由貿易協定)交渉下における、農政の基本的な考え方はどうか。
・水産振興について
・総合的な内水面漁業の振興に、どのように取り組むか。